

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470502026		
法人名	社会福祉法人 呉 同 済 義 会		
事業所名	グループホーム 温 養 院		
所在地 (電話番号)	呉市焼山中央6丁目6-13		(電 話) 0823-33-3858
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成19年 5月 14日	評価確定日	平成19年 5月 26日

【情報提供票より】(19年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成	17年	6月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	7人	常勤	4人, 非常勤	3人, 常勤換算 6.

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	14,000+実費 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200	円	

(4)利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	3名	要介護2	2名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85.5歳	最低	74歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	国立病院機構呉医療センター、村上クリニック内科循環器科、灘田歯科医院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

呉市郊外の豊かな自然に囲まれた環境の中で温養院グループが長年培ってきた福祉の精神に則り、ケアプランに基づき日常生活での介護、機能維持向上のための支援を行ない、地域に密着した利用者本位のホーム運営を目指している。
職員と利用者がお互いに支えあいながら、料理・洗濯・手芸・園芸・おやつ作りなどの日常の行事や、四季折々の行事の中で時間に制約されず、のんびりゆったりと笑顔で普通の生活を送っている。また地域行事や地域交流サロンへも積極的に参加するなど、地域との関わりを大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活行為の支援に関し「一緒に食事を楽しむ環境」の要改善点が懸案のままとなっているので前向きな取り組みを期待する。 ・職員の育成は段階に応じて計画的に行なわれている。 ・地域への広報は運営推進会議、機関紙、地域行事への参加などにより積極的に行なわれている。 <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は自己評価の意義を理解し、ミーティング等で意見を出しあいサービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自己評価の内容を説明、外部評価の結果を公表したり、ホームの活動状況の報告が主体となっており、外部からの参加メンバーの意見、助言は現段階では少ないが、会議を通じて得た改善点等をサービスの向上に具体的に活かすように努めている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時にホームからの声かけ、現況説明、家族からの意見・要望の聴取を行なうほか、定期的な機関紙の発行、随時連絡、苦情・相談受付窓口の明示などにより家族等の意見を前向きに受け止め運営に反映させている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や地域交流サロン等へ参加し、地域活動や人との交流を積極的に推進するとともに、機関紙の配布等による広報活動も行ない、地域との連携を深めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、家庭的な環境の下で地域との関係性を重視しつつ、その人らしく生活できるサービスの提供を目指した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づく運営方針を毎日のミーティングや実践の中で職員全員が確認し共有化して、具体的なケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会、地域交流サロンへの参加、地域活動や人々との関わりを積極的に推進するとともに盆踊りや地域小中学校の運動会等へ参加するなど、地元の人々との交流を深めている。又、機関紙の配布も行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全員が理解し、サービスの質の向上に向けて取り組み評価で見出された課題について改善計画を立て実施に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、事業所や利用者の現況について報告を行なうとともに、メンバーからの意見や助言を受けて地域に密着したサービスの向上に活かしている。	○	サービス向上につながる内容の会議として一層の推進を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の定期的来訪があり、積極的意見交換を行なっているが市の担当者との交流は少ない。	○	市の担当者に事業所の実情やケアサービスの取り組みなどの情報を提供し、意見交換の場をつくる方を検討されたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には気軽に声をかけ、利用者の暮らし振りや、心身の状況、金銭管理、事業所の現況について話し合うとともに、定期的に機関紙の発行、送付を行なっている。また必要に応じて随時連絡をとるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付・相談について詳しく記載し説明するとともに「ご意見箱」を設置している。「苦情処理・解決の手段」を玄関に図にして掲示してあり意見を出し易くしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の状態や業務の内容などを踏まえて勤務ローテーションを組んでいて職員の異動は退職者の補充以外は最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員教育の重要性を認識し、職員の経験や習熟度の段階に応じて、基礎研修、実務研修、資格取得研修等を受講できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や外部講習会の場で情報交換を行ないサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者一人ひとりが環境変化に慣れ安心してサービスを受けられるよう、利用開始前に体験利用を実施し、本人や家族の意見・要望も聞いて事業所での安定した生活ができるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という関係にとらわれず人生の先輩である利用者と共に過ごし、学び、支え合う生活を送り、料理・掃除等、利用者の得意分野を活かし和やかな生活の場を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の会話、気分の良い時の会話、怒っていることや悲しんでいることなど日々の行動や表情から思いや意向を把握し本人の希望に沿えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向に沿って自立支援に向けたケアプランを策定し、緊急性のある場合はその都度変更策定する。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了時にアセスメントを実施し、見直しを行うほかに、期間中でも見直しの必要があると判断した場合は随時見直しを行ない家族の了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設デイサービスセンターのレク活動に参加したり、医療連携体制を活かして24時間健康管理、医療活用の強化を図るとともに、通院・一時帰宅・外泊・墓参りの支援など柔軟なサービスを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関および利用者・家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要に応じカンファレンスを行ない併設特養の医療部門、家族と連携をとりながら、早期対応を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを傷付けないように気をつけて言葉かけや対応をし良好な信頼関係を築いている。また個人情報保護についてよく理解しており情報の漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の動きを職員側の都合や決まりで強制・無理強い等することなく入居者のペースに合わせて、それぞれの意思希望を尊重し利用者が自発的に何事も行なえるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・盛り付け・片付け等を職員と共に行ない食事の時間を楽しんでいるが、職員はサポート役に徹し食事を共にしていない。	○	事業所の特性をふまえていっしょに食事を楽しめる環境づくりを前向きに考えていただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の生活習慣や希望を尊重し、無理強いせず、いつでも自由にゆったりと入浴できるよう支援している。入浴が遠のいている人にはやさしく言葉かけをして入浴を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるように、調理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、園芸、おやつづくり、手工芸等余暇活動への参加を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活動作機能の低下を防ぐため、レクリエーション、クラブ活動やショッピングのほかに天気の良い日は日光浴を兼ねて園庭を散歩したり外出用車両でドライブをしたり、一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な暮らしを大切にするため日中は鍵をかけないことにしている。外出しそうな気配を感じたらさりげなく声かけをして職員と一緒に外出をするようにしている。鍵をかけないケアの取り組みとして常に目の届く位置で目を離さないケアを心掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを備え、併設の特別養護老人ホームとの合同防災避難訓練を行なっている。地域に対する協力依頼を口頭で行なっている。	○	グループ内だけの訓練にとどまらず地域との協力体制を確立し、具体的方策を立てられることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの体調や状態と食量、水分摂取量を把握しケース記録簿に記入し栄養のバランスがとれるよう支援している。 飲み物は定時提供と随時提供とを行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間・食堂などの共同空間には季節の植物や花、利用者がクラブ活動で作成した手芸品や絵を飾り家庭的な雰囲気を作り出している。 また、室内の温度、光、音は快適な状態に保たれ、居心地よく過ごせる環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく自分らしい生活をするように、使い慣れた生活用品や家具・馴染みのものを持ち込むことを自由にしていて、その人らしく過ごせる部屋づくりになっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所全体としての理念がある。		地域の方々との交流の一層の促進
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	掲示し、実践にむけて進むよう心がけている		理念に基づいた個別ケアの充実
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	玄関入り口に掲示し、来訪者・面会者に見ていただけるようにしている。		
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	夜間以外は出入り口を施錠せず、散歩等に出かけ交流を持っている。又、機関紙の配布も行なっている。		外出の機会を多く設け、地域交流を進める。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	盆踊りや地域小中学校運動会への参加、自治会との交流行事実施。		一層の地域交流サロンへの参加

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	機関紙を発行しその中でのお知らせ事項等の掲載を行なう。		気軽に来訪し、相談を受けられる雰囲気づくり。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年1回の自己評価、外部評価を受け、その活用。		意見箱の設置
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的実施している。	○	サービス向上につながる内容の会議として進める。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町担当者ではないが、市の介護相談員の定期的来訪があり、意見交換をおこなっている。	○	意見交換の機会をつくる方策検討
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会に参加促進する。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修については、まだ参加不十分		研修等により、学ぶ機会をつくる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明・話し合いを行なっている。		ご利用者・親族に分かりやすく、丁寧に説明する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見箱の設置、ご利用者との懇談会の月1回の開催。		職員はご利用者の話に常に傾聴する姿勢を持つ。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	機関紙の発行、送付。必要に応じ随時連絡をとる。		家族の要望を出来るだけ受入れる姿勢を持つ。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置し面会時、電話連絡時等に聞き取りを行なう。		定期的アンケートを実施する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、ミーティングの実施		会議内容の充実
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	平均的な体制がとれるよう調整を行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者の補充以外は、最小限としている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内外研修会の参加促進を行なっている。	○	介護福祉士資格取得促進。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現状、行なわれていない。経営法人の種類も異なり、難しい面がある。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	現状不十分。		職員親睦会等の行事参加促進し（旅行・交流行事等）ストレス軽減に努める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	適切な管理・状況把握に努める。		適切な人事考課制度導入、給与規程変更の検討。
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前面接実施、体験利用の実施		ご利用者の実態把握、家族意向の理解・確認。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学に来所いただき、説明と意見・要望の伺い。		色々なケースに対応できるようにする。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者にとってなにが必要か、サービスの内容優先順位を検討する。		スピーディーに対応可能な体勢づくり。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験利用を実施している。		徐々に環境変化に慣れていただけるよう配慮する。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・掃除等家事を共に行っている。		ご利用者の得意分野を探り、その機会を提供する。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	必要に応じ家族連絡をとり、対応ベストを話し合っている。		定期的近況連絡を行なう。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	差し支えのないよう家族よりお話を伺い、必要に応じ仲介をとっている。		電話内容等に配慮し、トラブルとならないよう注意する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	隣接デイサービスのレクリエーションと地域交流サロンに参加している。		入所前の居住地への訪問等
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者の行動等の観察を行い、トラブルの要因の減少を目指す。ご利用者共に活動する機会を多くする。		ご利用者同士の関係を活かしたケア。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	定期的連絡、広報誌等の送付。面会の促進		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別に話す機会を持ち、出来るだけ意向に添えるように努める。		意向に添えることが困難な場合は、相談、カンファレンスを行い検討する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所にいたる経緯、その後の生活状況等個人ファイルに記録している。		コミュニケーションを図り、より深く情報を得るよう心がける。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員会議、ミーティング等で個別ケースとして話し合うと共に記録している。		その都度気づいた時に、コミュニケーションノートに記録するようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意向に添った自立支援に向けたケアプランを策定し、緊急性のある場合はその都度変更策定する。		日ごろからの詳細な観察を行い、プランに活かす。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しの要があると判断された場合、適宜に実行する。 又、期間終了時にアセスメント実施し、見直しを行なう。		状態の変化、ご本人・家族の意向反映を目指す。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	カンファレンスに際しては、ケースファイル等活用し策定する。		細かな観察と記録
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設デイサービスセンターのレク活動参加		併設施設との連携、活用
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	市民センター実施の地域交流サロン参加。 傾聴ボランティアの来訪		ご利用者の特性、意向、必要性等の把握

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	実施できていない。		今後、意向や必要性に応じて対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	おこなっていない	○	今後、意向や必要性に応じて対応していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	支援できている。(協力医療機関、及びご利用者・家族の希望医療機関)		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じての対応体制が可能。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設特別養護老人ホームの看護職による緊急対応可能。		平素より医療部門との連絡、報告、相談体制確立を目指す。
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入退院時の付き添い、連絡等連携を取っている		入退院時の適切な対応

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	併設特養の医療部門、家族と連携をとり早期対応を行なう。		必要に応じカンファレンスを行なう。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態の変化に応じた対応、連絡等を行い、家族の意向を踏まえ、医療部門との連携をとる。		必要に応じカンファレンスを行なう。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	ご本人、家族、からの情報収集につとめ、環境変化に 適応していただく方向性を見出す。		家族からの詳細な情報収集
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人ファイルは施錠できる保管庫に納めている。 プライバシーに関する対話は個々に行なっている。		法人個人情報保護規程に基づく職員対応の徹底。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	選択の機会が多くあるよう心がけている。		色々な場面・状況で自己決定できるよう援助する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	強制、無理強い等することなく自発的に何事も行なえるよう支援している。		ご利用者の本意はどこにあるか、言動・行動等により判断出来るようにする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	事業所出入りの事業者を利用。家族との外出促進。 身だしなみの日を設定、理美容等整えられるよう支援する。		ご利用者の好み、意向の把握と提供
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備・片付け、盛り付け等職員と共にこな っていただいている。 食事は共にしていない。	○	ご利用者と共にティタイムを楽しむ。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご希望により、買い物等の外出を行い、職員が摂取量を把握するなかで、お楽しみいただく。		希望時に対応できる体制づくり。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、誘導・声かけの実施。 必要な排泄パッド等使用している。		排泄不調により、ストレス等がたまり不穏状態にならないようにする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご自身の意思でいつでも入浴できるよう準備・声かけ を行なう。		無理強ひなく入浴を楽しんでいただく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の生活ペースに合った休憩・日昼寝等で休んでいただく。		ご利用者の心配ごと、気になること等を把握し、取り除いていけるよう支援する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	調理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、園芸、おやつづくり、手工芸等余暇活動を行っている。		職員の担当、役割分担
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の支払については、各ご利用者に合わせた支援としている。		各ご利用者に合わせた支払場面の設定し、援助する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出用車両を保持し、臨機応変に対応出来る様にしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年間行事として、花見・遠足（春、秋）等企画している。		誕生日に職員と共に外出する（希望地）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話設置		自力で通話、通信不能の方には介助する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	出入り口は施錠することなく、ロビー、各居室等面会可能		気軽に訪問できる雰囲気づくり。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止の真の目的・意義を職員正しく理解し 拘束に対する禁止意識の徹底を図る。		具体的内容の理解
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠していない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は見守りと安全保持。夜間は定期的巡回		ご利用者が不快感を起こされることのないような見守りへの配慮。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員間でよく話し合った上での管理に努めている。		針、ナイフ等ご本人が管理不適なものは事務所で管理し、必要時に見守りの中で使用していただく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットの事例に学び、見守りの中リスクマネジメントに努める。 防災避難訓練の定期実施。		ご本人の意向重視の生活の中での安全保持、自立助長に努める。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	職員研修の参加。定期訓練実施は行なわれていない。 パート職員も現状不参加。		応急手当等の事業所内研修の実施。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	併設の特別養護老人ホームとの合同防災避難訓練を行なっている。 地域については、口頭での協力依頼のみ。	○	地域の方の協力が得られるよう、具体的方策をたてる。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	必要に応じ連絡をとっている。		本人の状況等を詳細に連絡し、家族の理解を得られるよう努める。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	連絡ノート、個別ファイルに記録し、経過観察に努めている。		小さな変化に気づく観察力を身につける。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	現状、不備な点がある。		医務、看護部門と連携をとり、理解するように取り組む。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	個別摂取品に工夫している。 散歩、体操等個別に心がけをしている。		各ご利用者に合わせた運動量、摂取量の理解。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個別に食後口腔ケアに勤めている。		ケアに抵抗のある方への方策の検討。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分摂取量の把握、色々な飲み物の提供 代替食の提供		飲み物は定時提供と随時提供と平行して行なう。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに添って実行している。		職員の対応マニュアルの理解徹底
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は特養調理室より提供を受ける。食器乾燥機使用 台所は夜間消毒を行なう。		安全な保管法の徹底（常温・冷蔵・冷凍）
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには花を置く。冬を除いて日中は玄関開放。		気軽に出入り可能な雰囲気づくり。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の植物・花を飾っている。適度な保温と静かな環境づくり。		トイレを常に清潔に保つ。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングチェア、食席等好きな場所で過ごしていただく。		昼でくつろげる場所づくり。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安全に活動できるスペースを保持した上で、私物の持つ込み可能。		各ご利用者の意向に添った配置、装飾の工夫。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的換気、エアコンにより適温保持、ご利用者の衣服着用により体温調節管理。		徹底した個別対応。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーに配慮した物品配置、異動観察		下肢機能の維持（適当な運動料保持）
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個別に理解可能な方策の検討・考慮・実施 失敗につながる要因の除去		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑、花壇での園芸作業、ブランターへの植樹等の実施		できるだけ収穫できるものを、結果が表れるものを対象に活動する。

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② ○利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② ○数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目